



2022年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2022年5月13日

上場会社名 HPCシステムズ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6597 URL <https://www.hpc.co.jp>
 代表者 (役職名)代表取締役 (氏名)小野 鉄平
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理部長 (氏名)下川 健司 (TEL)03-5446-5530
 四半期報告書提出予定日 2022年5月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年6月期第3四半期の業績 (2021年7月1日~2022年3月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年6月期第3四半期	4,989	△1.2	638	△9.6	621	△10.7	431	△9.8
2021年6月期第3四半期	5,051	28.3	705	56.6	696	58.6	478	57.8

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年6月期第3四半期	102.78	99.92
2021年6月期第3四半期	115.36	110.79

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年6月期第3四半期	5,041	2,215	43.9
2021年6月期	3,281	1,732	52.8

(参考) 自己資本 2022年6月期第3四半期 2,215百万円 2021年6月期 1,731百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年6月期	—	0.00	—		
2022年6月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年6月期の業績予想 (2021年7月1日~2022年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,425	10.2	745	10.2	741	11.3	496	11.0	119.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年6月期3Q	4,295,500株	2021年6月期	4,233,500株
② 期末自己株式数	2022年6月期3Q	65,747株	2021年6月期	79,577株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年6月期3Q	4,198,852株	2021年6月期3Q	4,149,440株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(時価の算定に関する会計基準等の適用)	7
(セグメント情報等)	8
(収益認識関係)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進み、経済活動が段階的に再開されるなど景気回復の動きがみられました。一方で、感染力が強い変異株の流行や、世界的なインフレ懸念の高まりによるサプライチェーンの混乱の他、ロシアによるウクライナ侵攻や、これに伴う資源価格のさらなる高騰など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社が属するコンピューティング業界においては、計算科学シミュレーション、クラウド、人工知能(AI)、ディープラーニング、ビッグデータ処理等の技術革新に対する需要が引き続き旺盛である一方、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済活動の停滞が、引き続き業界全体にマイナスの影響を及ぼしました。政府から発動された自粛要請によって経済活動が最小限に抑えられ、大学等公的研究機関の長期閉鎖や、民間企業の研究所・R&Dセンターにおける在宅勤務やテレワークの実施により、設備投資計画の見直し、意思決定の遅延といった事象が随所に発生しました。又、世界的な電子部品の供給不足により、製品供給までのリードタイムが長期化していますが、顧客が求める納期への対応を着実に進めております。

このような環境において当社は、2021年8月に公表した「中期経営計画Vision2024」に基づき持続的成長を支える人財育成・人財採用を進め、経営基盤の強化を図るため自社工場の進化を進めるなど一連の施策を進めております。WEBを使った効率的な営業活動を引き続き進める他、電子部品の供給不足に対応し、一定の在庫を確保することで製品供給のリードタイム短縮を図り、顧客の需要に迅速に応えられるよう施策をとっております。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は4,989,487千円(前年同四半期比1.2%減)、営業利益638,320千円(前年同四半期比9.6%減)、経常利益621,485千円(前年同四半期比10.7%減)、四半期純利益431,552千円(前年同四半期比9.8%減)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① HPC事業

民間企業向けは大手企業への深層学習計算機の大口案件もあり好調に推移したものの、新型コロナウイルス感染症の影響や前年補正予算特需の反動で大学等公的研究機関の需要が低調であった影響により、売上高は前年同四半期比で減少となりました。中期経営計画を達成すべく営業や技術の体制強化の為、人財採用を積極的に進めており、人員増加による販売管理費が増加したことで、セグメント利益は減少しました。

以上の結果、HPC事業の売上高は3,577,801千円(前年同四半期比2.2%減)、セグメント利益は487,857千円(前年同四半期比12.7%減)となりました。

② CTO事業

世界的な半導体生産の増強の流れを受け半導体関連産業向け販売が回復した他、前年は低調であった医療機関における設備投資やアミューズメント機器向け出荷が回復したことで継続顧客向け売上が復調しました。新規案件は前年の小売業向け大口案件の反動減等により低調に推移しましたが、継続顧客向けの販売が復調したことで、売上高は前年同四半期比で増加となりました。人員増加等により販売管理費が増加しましたが、売上増加と利益率改善によりセグメント利益は増加しました。

以上の結果、CTO事業の売上高は1,411,686千円(前年同四半期比1.4%増)、セグメント利益は150,462千円(前年同四半期比2.4%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産は4,694,528千円となり、前事業年度末と比べ1,687,815千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が827,340千円減少したものの、売掛金が1,886,432千円、棚卸資産が526,115千円、電子記録債権が86,340千円増加したことによるものであります。固定資産は347,438千円となり、前事業年度末と比べ72,620千円増加いたしました。これは主に投資有価証券が51,200千円、長期前払費用が22,396千円増加したことによるものであります。

以上の結果、総資産は5,041,966千円となり、前事業年度末に比べ1,760,436千円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債は2,491,061千円となり、前事業年度末と比べ1,204,845千円増加いたしました。これは主に未払法人税等が87,480千円減少したものの、短期借入金が1,130,000千円、買掛金が93,229千円、1年内返済予定の長期借入金が65,486千円増加したことによるものであります。固定負債は335,003千円となり、前事業年度末と比べ71,852千円増加いたしました。これは長期借入金が71,852千円増加したことによるものであります。

以上の結果、負債合計は2,826,064千円となり、前事業年度末に比べ1,276,697千円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は2,215,901千円となり、前事業年度末と比べ483,738千円増加いたしました。これは主に繰越利益剰余金の増加410,303千円、株式報酬等に伴う自己株式の減少34,730千円、自己株式処分差益の計上21,119千円の他、新株予約権の行使により資本金及び資本準備金がそれぞれ8,994千円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点においては、2021年8月12日に公表した数値から変更ありません。

2022年6月期の通期業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響や電子部品供給不足問題の動向等により、依然として市場環境が不透明であることを勘案し、期初計画を据え置くことといたしました。

今後、業績予想の修正が必要であると判断した場合には、速やかにお知らせいたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年6月30日)	当第3四半期会計期間 (2022年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,730,503	903,162
売掛金	475,876	2,362,308
電子記録債権	138,251	224,591
製品	6,246	8,445
仕掛品	105,827	121,592
原材料及び貯蔵品	311,025	841,047
未着品	48,234	26,364
前渡金	127,352	78,697
前払費用	37,315	72,082
その他	26,078	56,235
流動資産合計	3,006,712	4,694,528
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	43,755	41,239
機械及び装置(純額)	56,032	36,852
車両運搬具(純額)	2,648	2,589
工具、器具及び備品(純額)	5,538	21,690
土地	14,698	14,698
有形固定資産合計	122,674	117,070
無形固定資産		
ソフトウェア	26,970	25,095
無形固定資産合計	26,970	25,095
投資その他の資産		
投資有価証券	—	51,200
関係会社株式	21,540	21,540
出資金	10	10
長期前払費用	—	22,396
繰延税金資産	90,604	97,360
その他	13,018	12,765
投資その他の資産合計	125,173	205,272
固定資産合計	274,817	347,438
資産合計	3,281,530	5,041,966

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年6月30日)	当第3四半期会計期間 (2022年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	3,563	6,630
買掛金	199,660	292,890
短期借入金	450,000	1,580,000
1年内返済予定の長期借入金	139,496	204,982
未払金	27,472	50,826
未払費用	29,251	24,102
未払法人税等	167,813	80,332
前受金	73,986	113,946
預り金	6,624	9,396
賞与引当金	96,138	71,997
役員賞与引当金	36,000	15,750
製品保証引当金	26,482	31,663
その他	29,728	8,542
流動負債合計	1,286,216	2,491,061
固定負債		
長期借入金	263,151	335,003
固定負債合計	263,151	335,003
負債合計	1,549,367	2,826,064
純資産の部		
株主資本		
資本金	215,624	224,618
資本剰余金		
資本準備金	212,624	221,618
その他資本剰余金		
その他資本剰余金	101,000	101,000
自己株式処分差益	—	21,119
資本剰余金合計	313,624	343,737
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,402,635	1,812,939
利益剰余金合計	1,402,635	1,812,939
自己株式	△200,124	△165,394
株主資本合計	1,731,759	2,215,901
新株予約権	403	—
純資産合計	1,732,162	2,215,901
負債純資産合計	3,281,530	5,041,966

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2020年7月1日 至2021年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自2021年7月1日 至2022年3月31日)
売上高	5,051,384	4,989,487
売上原価	3,523,215	3,431,803
売上総利益	1,528,169	1,557,684
販売費及び一般管理費	822,248	919,364
営業利益	705,920	638,320
営業外収益		
受取利息	23	29
保険配当金	356	435
確定拠出年金返還金	316	—
その他	90	223
営業外収益合計	786	688
営業外費用		
支払利息	2,987	5,192
為替差損	6,557	8,957
支払手数料	723	3,356
その他	101	16
営業外費用合計	10,369	17,523
経常利益	696,337	621,485
特別利益		
固定資産売却益	499	803
特別利益合計	499	803
特別損失		
固定資産除却損	60	26
特別損失合計	60	26
税引前四半期純利益	696,776	622,262
法人税、住民税及び事業税	216,951	188,088
法人税等調整額	1,157	2,621
法人税等合計	218,108	190,710
四半期純利益	478,668	431,552

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2021年10月27日開催の取締役会決議に基づき、2021年11月26日付で、譲渡制限付株式報酬としての自己株式13,900株の処分を行っております。この結果、当第3四半期累計期間において、資本剰余金が21,119千円増加、自己株式が34,967千円減少し、当第3四半期会計期間末において資本剰余金が343,737千円、自己株式が165,394千円となっております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、HPC事業において、本体と同時に販売する保守については、本体販売時に一括で収益を認識する方法によっておりましたが、4年目以降の保守については「財又はサービスが合意された仕様に従っているという保証のみである場合」を超えるため、履行義務として識別し、保守期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高、営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益がそれぞれ41,517千円減少しております。又、利益剰余金の当期首残高は21,248千円減少し、前受金の当期首残高は33,688千円増加しております。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、当会計基準適用による四半期財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期累計期間(自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期 損益計算書 計上額
	HPC事業	CTO事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,659,217	1,392,167	5,051,384	—	5,051,384
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,659,217	1,392,167	5,051,384	—	5,051,384
セグメント利益	558,928	146,992	705,920	—	705,920

(注) セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期累計期間(自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期 損益計算書 計上額
	HPC事業	CTO事業	合計		
売上高					
顧客との契約から生じる 収益	3,577,801	1,411,686	4,989,487	—	4,989,487
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	3,577,801	1,411,686	4,989,487	—	4,989,487
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,577,801	1,411,686	4,989,487	—	4,989,487
セグメント利益	487,857	150,462	638,320	—	638,320

(注) セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期累計期間の「HPC事業」の売上高及びセグメント利益はそれぞれ41,517千円減少しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。